



ノア通信

No. 28 2019年4月3日発行

今年度もよろしく

平成の次の元号は令和になると発表されました。正直なところあまり良い元号だとは感じなかったのですが、慣れると親しみが沸いてくるのかもしれませんが。

さて当会では4月1日から新年度に入りました。弱小な会ですし代表の後継者も見つきりそうにありませんので、いつまで存続できるか分かりませんが、だからこそ1年1年を大切に、真剣に活動に取り組む所存です。どうぞ本年度もよろしくご支援のほどをお願いします。以下に昨年度の活動実績と今年度の活動計画を述べます。これをもとに通常総会を開催して会員の皆様の承認を頂き、正式に今年度の活動がスタートします。

事業報告書は埼玉県が例示した様式に従って北部地域振興センターに提出するのですが、この様式だと分かりにくいのでここでは活動実績と決算を含めた形で報告します。すなわち、定款に掲げた事業名毎に、何を行ったのか、その事業にはいくらの収入があり、いくらかかったのかを述べます。

2018年度の事業報告

総収入と総支出

2018年度は収入合計3,028,608円、支出合計は2,953,620円となり、差し引き74,988円が次年度繰越金となりました。2018年度の前年度繰越金は454,400円だったのですが、2019年度への繰越金は大幅に減少し、74,988円となりました。

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	454,400	事業費支出	2,649,634
会費	75,500	管理費支出	303,986
寄付金	439,000		
事業収入	2,059,600		
利息	108		
収入合計	3,028,608	支出合計	2,953,620
次年度繰越金	74,988		

事業ごとの活動実績と決算

次に定款に記された事業別に活動状況と収支決算を報告します。

1. 事業費

① 障害者総合支援法による障害者福祉サービス事業

本事業は障害者福祉施設として認可された障害者のグループホームを設立し、運営する事業です。認可施設は簡単にはできませんので、2018年度は情報収集と建設候補地探しを行っただけで収入も支出もありませんでした。

② 自立困難者の就労及び生活支援事業

前期のグループホームを設立するまでの暫定的な場所とするとともに、様々な方との交流拠点とするため軒屋を借りて実施している事業です。この家は「いこいの家ノア」と名付け2017年4月から開設しています。2018年度も2名の障害を持つ若者の住まいとして活用するとともに、里親サロン、井戸端会議、里山体験プログラム、クリスチヤンの集いなどの場として使用しました。収入は2名の利用者から月額8万円を頂いたので1,920,000円ありましたが、支出は2,283,865円となり363,865円の赤字となりました。

③ 里親と里子の支援事業

里親サロンを5回、里親だけのサロンを3回、井戸端会議を12回行ったほか、有志によるクリスチヤンの集いを11回開催しました。収入、支出ともにありませんでした。

④ 里山の生き物の保全事業

ビオトープ池の管理とその生物調査、アキアカネとウスバキトンボについての全国調査を行い、後者は報告書として190部印刷して、協力者や関係団体に郵送しました（ノアの会員への送付はノア通信28号に同封しましたので、送料は2019年度の経費とします）。収入はなく支出は印刷費、送料、調査経費など合計155,870円でした。

⑤ 自然の恵みの分かち合いをとおした交流事業

ワンダースクールに依頼された里山体験プログラムのほか、当会主催の自然体験、農業体験、農産加工体験などをとおした交流事業を行いました。収入は参加費や農産物頒布などで合計139,600円、支出は講師者金、種苗費、消耗品費など合計123,310円で、差し引き16,290円の黒字となりました。

⑥ 相互に支え合うための情報提供事業

ホームページでの情報提供、ノア通信の発行などで収入はなく、支出はホームページの管理委託費、会報の送料や消耗品費など86,589円でした。

2. 管理費

管理費の支出合計は303,986円で、その大半は軽トラックの諸費用（車検代、修理代、ガソリン代、税金、保険代）で、ほかに消耗品費の支出がありました。

2019年度の事業計画と予算（案）

総収入と総支出

2018年度は前年度繰越金が45万円あまり、寄付金が44万円ほどありましたが、何とか赤字にならずに済みました。しかし、今年度は繰越金が7万円あまりしかありません。昨年は10万円の寄付をして

くださった方が2名、5万円寄付してくださった方が1名いらしたのですが、このような大口の寄付は望めませんし、望むべきではないでしょう。年会費は千円ですので多少会員が増えても大幅な収入増は期待できません。このため、2019年度はなるべく経費を掛けずに活動することが求められます。昨年収入に対して支出が大幅に多かった事業は②の「いこいの家ノア」の運営費で、毎月3万円前後の赤字になっていました。家賃が月額4万円掛かっていますので、家賃支出がなければ昨年程度の収入で運営できます。このため、体制が整い次第「いこいのノア」を我が家（新井宅）へ移転し（11月頃？）家賃支出をゼロにすることにします。下表がこうした対応を行って立てた2019年度の予算です。

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	74,880	事業費支出	2,200,000
会費	60,000	管理費支出	98,000
寄付金	150,000		
事業収入	2,060,000		
利息	100		
収入合計	2,344,880	支出合計	2,298,000
次年度繰越金（予備費）	46,950		

事業ごとの活動計画と予算

① 障害者総合支援法による障害者福祉サービス事業

認可されたグループホームでないとして、運営するのは困難なようですので、今年度は認定事業者に向けた準備を本格的に始めることにします。認定事業者になるためには、人員基準、設備基準、運営基準の全てを満たさなければなりません。その中で最大の課題が、5LDK程度の新たな家を立てる資金を如何に得るかです。どう逆立ちをしてもそんな大金は調達できそうにありません。でも、出来るところから始めるしかありません。今年度中に土地の確保と建設工事費の見積もりを行う予定です。

② 自立困難者の就労及び生活支援事業

桜沢の家での「いこいの家ノア」の活動は11月頃までとし、その後は末野に移動して活動を続けます。11月以降は利用料収入の範囲内で行います。

③ 里親と里子の支援事業

桜沢の家で11月まで「いこいの家ノア」でノアサロン、井戸端会議、有志によるクリスチャンの集いを開催します。11月以降はどうかは、その時点で皆様の意見を踏まえて検討します。今年度も収入、支出ともに計上しません。

④ 里山の生き物の保全事業

男衾のビオトープ実験池は昨年度で埋め立てて土地を返しました（業者に依頼してあるのですが、まだ埋め立て工事は行ってないようです）。その代わりに用土の畑にミニビオトープ池を作り、その生物調査を行います。トンボの保全については他団体のアドバイスなど間接的な支援を行う予定です。収入はゼロ、支出は2万円程度を見込みます。

⑤ 自然の恵みの分かち合いをとおした交流事業

今年度もワンダースクールに依頼された里山体験プログラムのほか、当会独自で行った自然体験、農業体験、農産加工体験などとおした交流事業を行う予定です。

収入は参加費や農産物頒布などで13万円、支出は講師者金、種苗費、消耗品費など合計12万円を見込んでいます。

⑥ 相互に支え合うための情報提供事業

ホームページでの情報提供、ノア通信の発行などとおして情報提供します。収入はなく、支出は9万円を見込みます。

管理費

今年度は軽トラックの車検がなく、修理も必要ないと思います。このため、前年度の1/3の約10万円の支出を見込んでいます。

時代についていけない私

平成があと1月足らずで終わろうとしています。皆様にとって平成はどんな年だったでしょうか？私は自然災害が多く、政治家や大企業の嘘が当たり前になり、価値観が変化した時代で、あまり良い印象を持ってない時代でした。昭和23年生まれの団塊の世代の私にとって、子供の頃の夢の世界が次々に実現する時代でもありました。私たちは戦争の恐ろしさを体験せず、経済発展を味わい、科学や医学の恵みに預かれたとても幸せな世代だと思います。競争社会ではあったものの、子供時代は自然の豊かさが残っており、生き物と触れ合う楽しさも体験できました。しかし、この年になると社会の変化についていけない自分に気づきます。最近のパワハラやセクハラなどは当たり前のことで、それが差別だという認識に乏しいのです。男は男らしく、女は女らしくしなさい、と教えられて育ちましたので、今でも男と女は役割が違うと考えており、専業主婦や子育ては大切な仕事であり、職業がない女性だって立派に活躍していると思うのです。同性婚の合法化には違和感を覚えます。人間の平等や人権は尊重すべきですが、だからといって何でも許されるものではないと思うのです。再生医療やゲノム編集は革命的で人々に大きな希望をもたらすものですが、そこまでやって良いのだろうか？との疑問があるのも正直なところ。要するに、私は時代の変化についていけない老いぼれだということです。今でさえついていけないのですから、この先益々ついていけなくなるのが目に見えています。人生100年時代の到来が近いと言われていますが、長生きは幸せには結びつかないと感じています。

内田正吉さんを偲んで

今年の2月1日に内田正吉さんから以下のメールを頂きました。

「私の方は昨年秋ころから疲れやすくなりました。そのため予備校の仕事は昨年末まで行い、1月以降は辞めました。現在、埼玉県立がんセンターへ通院してまして、1月に血液検査を行ったところ、肝臓の機能が劣っていることがわかりました。現在はほとんど外出することなく、ゆっくりと過ごしています。ノア通信と、ウスバキトンボとアキアカネの報告書を拝見するのを楽しみにしています。寒さがまだ続きそうです。お体をご自愛下さい。」

このメールの9日後の2月10日に、内田さんが亡くなったとのメールを奥様から頂きました。あまりにも突然のことで、とても信じられませんでした。まだ54歳という若さです。悲しいし、悔しいし、残念だし、腹立たしいし、どう表現したら良いのでしょうか。

実は2年ほど前に本人から入院手術されたと聞いていましたが、その後職場に復帰されたと聞き安心していました。しかし表記のメールからあまり体調が思わしくないことが察せられたものの、亡くなるほどの状況だとは全く認識していませんでした。何故見舞いに行かなかったのか、なぜもっと話をしておかなかったのか悔やまれ、ノア通信も赤とんぼ報告書も生前に届けることができませんでした。しかし自分を責めてもどうにもなりません。今私にできることは内田さんの思い出を語るだけです。

内田さんとの出会いは職場を通してです。私が埼玉県蚕業試験場に勤務中、彼は新規採用職員として蚕業指導所に配属になりました。同じ蚕糸業に関わる仲間として出会ったのですが、彼がムシヤ（昆虫採集や研究を趣味とする連中）であることを知り、親近感が生まれました。私はトンボ、彼はバッタと興味の対象昆虫は異なっていましたが、その後私が彼の暮らす寄居町に住むことになって以来、親しくお付き合いすることになりました。内田さんは農家でしたので、時々家でとれたばかりの新鮮な農産物や栗を届けてくれました。しかし農業に対する将来については懐疑的だったようです。とはいえ、跡取り息子として公務員を定年退職したら、自給程度には農業を引き継ぐのではないかと私は想像していました。ところが、そのわずか数年後、突然退職し大学院へ入学してしまいました。それを知った私は、自分のやりたいことに挑む勇気に驚くと同時に、羨ましく思いました。彼の影響ではないと思うのですが、私も51歳で希望退職してしまいました。最初の仕事が養蚕業に関するもの、趣味が昆虫、早期退職という共通点があり、歳は離れていましたが彼は私にとって気の合う仲間でした。彼がいなければできなかったことがあります。田んぼ作りです。当時里山保全に関心を持っていた私は、自分の手で田んぼを作ってみたかったし、生き物が溢れるような田んぼを復元したかったのです。その願いを叶えてくれた恩人が内田さんです。実家の13アールの田んぼ（親類の田んぼかも知れない？）を提供してくださり、自らも一緒に耕作して、田んぼ作りのイロハを教えてくれたのです。それは今から27年前の1992年のことです。内田さんはその田んぼで4年間昆虫調査を行い、「無農薬の水田における昆虫相の調査」という冊子にまとめてくれました。また、1995年には子供を集めて寄居町の昆虫調査隊を組織し、1年間町内の昆虫採集を行いました。講師役はバッタその他の昆虫が内田さん、ハチが南部さん、トンボが私です。参加者は子供8名、保護者4名と多くはなかったのですが、参加した子供たちにとって貴重な体験になったと思います。それまでも子供たちを対象に単発的な昆虫調べは行ってきたのですが、どうしてもイベント的になってしまい、虫を追いかけたり見つけたりする楽しさや、難しさを伝えきれない不満がありました。この1年間の継続調査は私たち講師役の者にとっても貴重な体験でした。実はもう一度3人でこのような昆虫調査隊をやろうかと思っていたのですが、南部さんは高齢になり、内田さんが亡くなり夢と消えてしまいました。残念でなりませんが、この3人の共著で「田んぼの虫の言い分」という本を出版できたことがせめてもの慰めとなりました。出版といえば、内田さんは多くの本を出版されています。最初の本は「減るバッタ 増えるバッタ」だったと思います。この本はバッタの暮らしをとおして、環境を評価したユニークなものです。ほかに



「バッタ・キリギリス大図鑑」、「鳴く虫セレクション」などバッタの専門家としての地位を築きました。しかし、私はこうしたバッタの研究書より、自然の音に耳を傾け、その音を言葉として表現するという彼独自の世界を開いた点を高く評価しています。それは「里山のさえずり」、「耳を澄まして季節を感じる」という2冊の著書として発表されています。また、子供向きの月刊絵本出版社として定評のある福音館から「なくむしこみち」が出版されたことは、彼の描く世界が認められた証でしょう。本書では「チィ・チィ・チィ」とか「リー・リー・リー」といった虫の鳴き声だけで構成されています。これまでは生き物の世界を目で見て記録することばかりでしたが、内田さんは音で記録するという新たなジャンルを切り開いた人でした。鳴き声だけではなく、ネズミが落ち葉を踏む音まで記録し、落ち葉の種類によって異なった音となることを感じ取っています。これから彼の感性がどのように展開するのか楽しみにしていたのですが、途中で終わってしまいました。残念です。奥様によりますと彼のバッタの標本などの遺品を有効活用されたいとのことです。昆虫標本は興味のない人にとっては、気持ちの悪い虫の死体に過ぎません。しかし研究者にとっては貴重な財産です。とりわけバッタの標本を保存収集している博物館は少なく、標本だけでも博物館で保存して有効に活用して欲しいものです。

人生100年時代と言われる今日では54歳というのは若すぎます。しかし、人生は長さではなくいかに精一杯生きたかだと思います。内田さんは真面目で、一生懸命で、自分の信念に忠実に生きた人生だったと思います。その温厚な人柄から誰にも好かれるタイプでした。遺影ともなった亡くなる2日前に病院で息子さんと並んで撮った写真の穏やかな笑顔を見ると、自分の人生に満足していたことが覗えます。元気で入院してそのたった2日後に亡くなるなんて、羨ましい死に方です。

私は死後の世界があると信じています。そこで内田さんと再会できることを切に願っています。その願いが叶ったらゆっくりお話ししましょう。それまでお別れですね。さようなら。(新井 裕)

2019年度の総会について

2019年度の通常総会を平成31年4月20日(土)の13時から「いこいの家ノア」で開催します。

総会は年に1回皆様のご意見を直接お聞きする貴重な機会です。ご都合がございましたらぜひご参加ください。1~3ページに掲げました内容について検討いたします。総会に欠席される方は、委任状をお送り下されば幸いです(電子メールかFAXで「総会欠席のため理事長に委任」と送信して下さっても結構です)。総会は定款の規定にしたがい、会員の半数以上の出席に満たないと成立しませんのでよろしくお願い致します。

4月~6月のイベント一覧

4月から6月までのイベントなどの開催予定は次ページの表のとおりです。赤字で表記したワンダースクール主催のイベントは、有料で事前に申し込んだワンダースクールの会員のみが参加できます。その他

はどなたでも参加でき無料です。ただし、事故などのトラブルの責任は当会では一切負いかねますので、ご承知の上ご参加ください。なお、当会主催のホタル観察会は行わないことにしました。理由はホタルの発生があまり期待できないことと、夜のイベントはイノシシの襲撃など危険を伴うためです。どうぞご了承ください。

開催日	イベント名	主催
4月16日（火）	第1回クリスチャンの集い	有志
4月20日（土）	NPO法人ノア総会	当会
4月23日（火）	第1回井戸端会議	当会
5月11日（土）	兜川の生き物探しとトンボの羽化観察	ワンダースクール
5月14日（火）	第1回ノアサロン	当会
5月25日（土）	兜川の生き物探し	当会
6月1日（土）	春野菜の収穫とサツマイモ植え	ワンダースクール
6月8日（土）	じゃがいもの収穫	当会
6月18日（火）	第2回クリスチャンの集い	有志
6月25日（火）	第2回井戸端会議	当会
6月29日（土）	ホタル狩りと暗闇探検	ワンダースクール

今年もノアサロンを続けることになりました

里親の悩み相談と社会的養護に関する意見交換、情報交換の場としてこれまで行ってきたノアサロンは2018年度をもって終了しようかと考え、その是非をお伺いするため3月7日に臨時のノアサロンを開催しました。その結果参加者9名のうち全員が2019年度も継続するべきだとのことでした。このため、本年度も数回のノアサロンを開催することにしました。開催継続の主な理由は、里親や養親に特化した18歳以上になった子供の相談窓口がないことです。さらに、これまでノアサロンで築いてきた関係が断ち切られてしまうことはもったいないし、これまでの経験を若い里親さんに生かす道を模索することも大切だと考えたからです。第1回は下記の日程で行いますので、ご都合がございましたらぜひご参加ください。

日時：令和元年5月14日（火）10時30分～12時

場所：いこいの家ノア（寄居町桜沢490-7）

申し込み：不要です。お気軽にご参加ください。

問い合わせ：新井 裕（080-8430-9585）

兜川の生き物さがし

川の中に入って生き物を探します。危険な川ではありませんが、各自事故には十分お気を付けてください。傷害保険には加入していませんので、事故の責任は一切負いません。ドジョウ、ヨシノボリ、アブラハヤ、スジエビ、アメリカザリガニ、ハグロトンボのヤゴなどが見つかると思います。

日時：令和元年5月25日（土）10時30分～12時

集合場所：東武東上線東武竹沢駅前ロータリー（現地まで車で5分ほどです）

参加費：無料

雨天：中止

問い合わせ：新井 裕（080-8430-9585）

持ち物：採集用具（タモ網、ザル、バケツなど）、着替え、長靴（必需品）、飲み物など

大きなジャガイモができたかな？

3月21日に植えたジャガイモの収穫を行います。収穫量によっても異なりますが、1家族につきレジ袋1袋分程度は差し上げられると思います。みなさんに販売用のイモの収穫も手伝っていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。収穫までは雑草の抜き取りが不可欠ですので、都合がつきましたら、いつでも草むしりに来てください。

日時：令和元年6月8日（土）10時30分～12時

集合場所：寄居町用土のふれあい農園

参加費：無料

雨天：延期（当日雨でなくても土が湿っている場合は延期します）

申し込み：不要ですが、念のため決行するかどうか確認された方が無難です

問い合わせ：新井 裕（080-8430-9585）

持ち物：軍手、長靴、飲み物など

寄付してくださった方々（平成 31 年度 1 月 1 日～平成 31 年 4 月 3 日）

下記のようにたくさんの方から寄付金をいただきました。ご支援に心から感謝します。有難うございました。

浅見千恵子様、富田光枝様、後藤幸枝様、尾張部久仁江様、加藤 寛様、小日向しのぶ様、古城知己様、水戸たか子様、岩淵けい子様、里美静江様、輪湖 昇様、杉本豊嗣様、田村典子様、鈴木詔一様、清水浩一様、吉田一夫様、宮内博至様

編集後記

今年度最初のノア通信を赤とんぼ報告書とともにお届けします。赤トンボ報告書なんかもらっても迷惑だと感じる方も少なくないと思います。しかし、この報告書の印刷費は皆様の会費と寄付金によって賄っていますので、全員の会員にお送りするのが義務だと考えます。どうぞご了解ください。

時代の変化が早く、私はその変化についていけないと感じているのですが、赤とんぼも田んぼの環境変化についていけず、減少の道を転げ落ちているのではないのでしょうか？

2019 年度の事業計画案などを本誌に掲載しました。4 月 20 日の総会で皆様にお諮りしてご意見を伺ったうえで、正式に 2019 年度事業がスタートします。

寒暖差が激しい季節ですが、当地ではすでにツバメが飛来しました。ウグイスも盛んに囀っています。冬から春への歩みはゆっくりですが、確実に春はやってきます。

当会の歩みも止まってしまいそうなくらいゆっくりですが、確実に前進したいと願っています。

次号は 6 月発行の予定です。(Y.A)

ノア通信 28 号（平成 31 年 4 月 3 日発行）

NPO 法人ノア 〒369-1205 大里郡寄居町末野 1 2 3 3 - 2 新井方

TEL&FAX : 048-581-4540、E-mail : tombo2@d1.dion.ne.jp、携帯 : 080-8430-9585

HP : <http://npo-noah.org/>

年会費 : 正会員 1,000 円、賛助会員一口 5,000 円

郵便振替口座 : 00110-4-387364 加入者名 : 特定非営利活動法人ノア

銀行から送金の場合は、0一九店、当座、0387364、特定非営利活動法人ノア